

自然賛歌

— 楠の木は残った —

妹尾 治人

楠の木は大きくなるので一般家庭ではあまり見かけないが神社の境内などで大きく成長しているのを見る。郷土文化研究会発行の「ロマンのこみち」の冊子をもとに廿日市の神社仏閣等を歩きながら観察した楠の木を大きい順に並べると次のとおりである。(目測による胸高の幹囲)

- 天神山(正覚院裏) 六・五m
- 下平良(流れ薬師) 四・〇m
- 地御前(大歳神社) 三・〇m
- 佐方(八幡神社) 二・五m
- 地御前(地御前神社) 二・五m外に三本
- 天神(中央公民館) 二・〇m
- 上平良(速谷神社) 一・〇m参道に一四本



流薬師と楠の木(下平良)

どの楠の木もそれぞれ歴史を物語るものであるが、下平良「豊公(とんこ)橋」少し上にある木は、可愛川氾濫の際原川末の泉水畔に向かうところにあつた薬師如来がこの木の根本に流れついていたのを、村人が見つけてその楠の木のところにお祀りし流薬師様と呼ばれ今に伝えられている。中央公民館前にある楠の木は、古老の話によると佐伯郡役所が新築された明治二十二年(一八八九)植樹されたもので、その後昭和四十六年に建物は解体されたが、楠の木は残されたとのことで樹齢は、一一〇年程である。

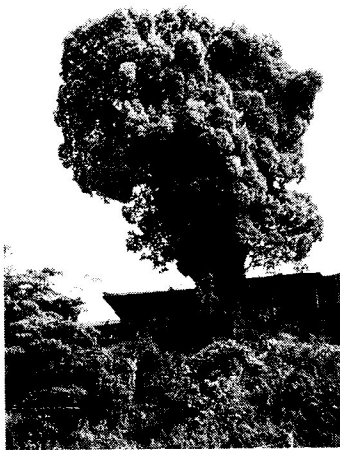
速谷神社の楠の木は、参道の松が枯れたので、昭和六十年に他所から大きな楠の木の枝を切り詰めて運び、参道の両側に七本宛植えられたもので、日当たりも良く大きく生長している。

その他の楠の木については、おおよその見当はつくものの確かな記録がなく、樹齢が不明なのが残念である。

昨年、巖島神社の鳥居に使用する楠の木を植えてほしいとの呼びかけがあり、廿日市では宮園ランドゴルフの会がお祓いを受けた苗木をいただいて帰り、これを速谷神社の池の裏側に植樹されている。また、広田神社には平成二年に寄進された楠の木があり「楠木の千年伸びよ若葉して米寿

翁恵兵」の石碑が建てられている。これ等は今は小さいが五十年百年先が楽しみである。

楠の木は南方(暖地)系の植物で、楠の木科にはシロモジ・クロモジ・タブノキ・ニツケイ・シロダモ・月桂樹などがあり、共通してさわやかな芳香がある。これら樹木から発散するフィトン、チットにはテルピンがあり、脳を刺激し頭をさわやかにする作用があるのでグリーンシャワーに最適であると言われている。



天神山の楠の木

天神山の楠の木が天に向かって高くそびえる姿は廿日市のシンボルのひとつである。この木を始め大きな楠木の樹齢と歴史を調べ、天然記念物に指定しいつまでも大事に見守ってやりたいものである。

楠の木が歴史と共に生きている

(自然観察指導員)